

新中学校開校準備委員会だより No.16

令和6年3月

修善寺・中伊豆・天城地区新中学校開校準備委員会事務局（伊豆市教育委員会学校教育課内）

開校まであと1年、伊豆中の目指す姿を共有していくことで一致

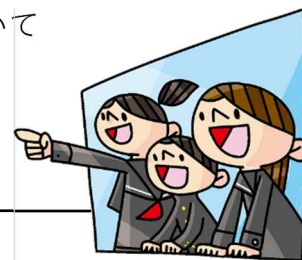
新中学校の建設現場では、校舎の2階部分の工事が始まり、全体の形が見えてきました。去る3月6日、令和5年度最後の準備委員会を開催しました。3年前に立ち上げた準備委員会は、今回で17回目となり、これまでに制服や校名、校章等に関して答申を行ってきました。

開校まであと1年に迫った今、現在の立ち位置を確認する中で、令和6年度に取り組むべき内容について確認を行いました。特に学校教育の中身の部分については、学校（校長や教員）が決めるものであると考えがちですが、目指す学校の姿や目指す子供の姿を市民の皆様にも共有していただくことで、よりよい教育につながっていくと考えています。伊豆中学校が、未来を創造する伊豆市の子供たちにとって最適な教育環境になるよう、これからもお力添えをお願いします。



令和5年度の経過

- | | | |
|------|--------|--|
| 第12回 | 6月7日 | 校章の作成方法及びデザイン募集について
学校部活動の現状と課題、部活動指導員制度について
校章デザインの募集 6月9日～7月18日 |
| 第13回 | 7月27日 | 校章デザインの応募状況と1次審査
地域別の課題について協議 |
| 第14回 | 9月28日 | 伊豆中学校グランドデザイン案について
校章作成委員会が再構成した校章案について審議 |
| 第15回 | 11月21日 | 校章案の検討、エンブレム・体育着のマークに関し児童生徒の投票
結果を参考にすることを決定
総合的な学習の時間（仮称）「伊豆探究」について |
| 第16回 | 1月25日 | 校章案及び制服につけるエンブレム案、体育着のマーク案決定
下校時刻を午後4時30分にするについて
教育長へ校章案を答申 2月9日 |
| 第17回 | 3月6日 | 伊豆中学校 PTA 規約案について
開校準備委員会の経過と令和6年度の予定 |



令和6年度に審議される内容（継続的な審議内容を含みます）

通学方法・安全対策
バス路線等

教育課程・学校行事
日課・時間割等

部活動

校歌

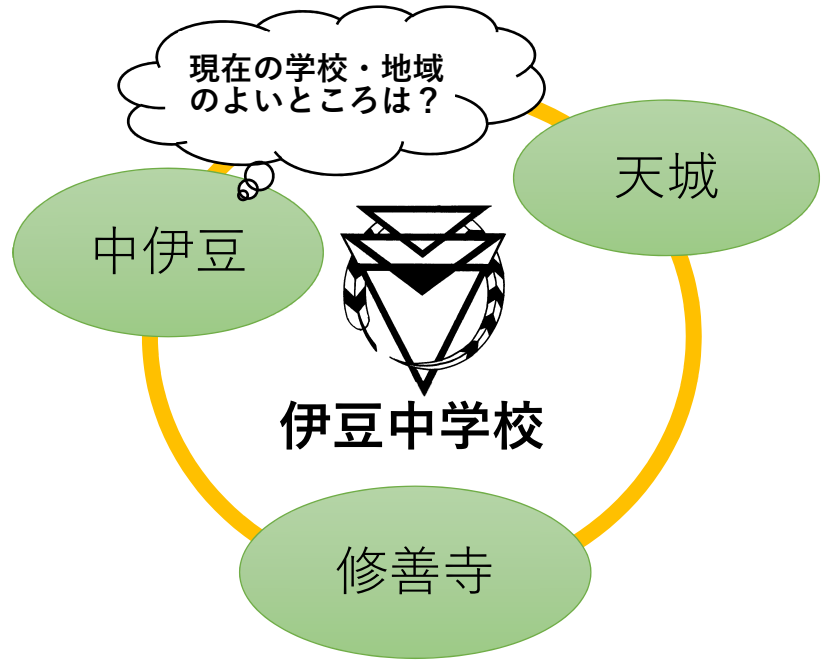
その他
必要事項

伊豆中学校で地域連携をどう進めるか

いま学校では、行事や総合的な学習の時間を中心として、さまざまな面で地域のサポートを受けています。伊豆中学校でも、地域のひと・もの・ことから学ぶ「伊豆探究」（総合的な学習の時間）を推進するには地域とのかかわりは必須です。

しかし、学校の統合によって校区が広域化することにより、これまでに培ってきた各地域とのつながりをどう維持し発展させていくかということについて、心配な点もあるのではないかと思います。例えばそこには、キーパーソンとなる人材が必要であったり、中学生が地域の活動に積極的に関わる働きかけが必要だったりします。

それぞれの地域がもつ特色やよさを伊豆中学校に集約していくためにはどうしたらよいか。今回の準備委員会では、地域連携の進め方について委員の皆さんから意見を伺いました。



資源回収への協力などから学校への期待を感じている。

中学校ではキャリア教育の中で職業講話、職場体験などをお願いしている。

東京ラスクや養魚場など、地域の産業に関わる職場体験は貴重な体験。

伊豆市全体で様々な体験ができるのはとてもよいこと。

コロナで自粛してきた活動が復活し、積極的に地域へ出かけ連携が進んでいる。

子供たちは赤ペン先生に教わるのが楽しみ。コミュニケーションが生まれている。

地域連携は学びのてだての一つ。自ら課題を見つけて解決していこうとする子供を育てることが大切。

地域づくり協議会を通してどういう人材がいるのかを聞くのもよい。

学校運営協議会では地域のことをよく知る人を選出したい。

災害が起こった場合は、地域で活躍できる人材として中学生が期待されている。

防災公園を活用し水や電気がない中での防災キャンプなどが貴重な体験になるかも。

コミュニティスクール（学校運営協議会）の普及で学校と地域の連携が進んでいます。地域の方が参加する活動では、学校のカリキュラムに組み込まれた取り組みも増えています。

ただ活動を行うだけでなく、生徒につける力を意識し、体系的な取り組みが求められています。子供たちが地域の活動に参加することで、地域全体が発展する可能性があります。（静岡大学 武井教授）

アドバイザーより

近所づきあいが減少している現代では、学校が地域社会とのつながりを担っているとも言えます。学校が信頼を得ているからでしょう。

挨拶運動や総合的な学習、イベントなどを通じて、継続的なつながりを築くことが重要だと感じます。地域との交流を大切にし、地域特有の活動に参加することが望ましいと考えます。

（名古屋柳城女子大学 菊地准教授）

お知らせ

教育委員会2月定例会において、開校準備委員会設置要綱の改正がありました。これにより、4月1日から準備委員会の名称が伊豆中学校開校準備委員会になります。